



上智大学創立 100 周年
 上智短期大学創立 40 周年
 上智社会福祉専門学校 50 周年



上智短期大学の英語教育

No. 9

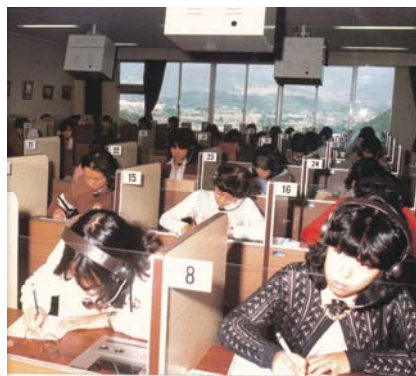
上智短期大学(以下短大)の英語教育を端的に表現すれば、「英語を教える授業」から「英語で教える授業」の拡充に努めていることである。この方針転換は、21世紀初頭に短大内に組織された多面的な改革検討委員会の提案に基づく。

1. 英語教育の歴史的経緯

短大の創立は1973年。当時の英語教育は、「文法・訳読」、「オーラル教授法」、そして「直接教授法(direct methods)」の各々の長所を反映させたカリキュラムであった。具体的には、1)「文法・訳読」を担った「英文法」「英文作法」「英文講読A」、2)授業時間の一部をL.L.教室(写真②)で、また教室ではネイティブ教員が行う「Oral



写真①



写真②

English」(写真③)、3)ネイティブ教員が行う「英文講読B」(写真④)、4)学長が自ら講義する「英語音声学」(写真①)。一方、専門選択科目にはネイティブ教員が担当する「イギリス史」や「英語史」があり、カリキュラム全体としては英語の必修科目の占める割合が高かった。しかし、中学や高校の学習指導要領の改訂、入試の多様化、入学者の習熟度の変化、卒業生の進路の多様化に伴い、2003年度より新カリキュラムをスタート。この新カリキュラムは、必修科目を削減して学生個人の必要に応じて英語のレベルアップが図れるように科目を配置するものであった。

English」(写真③)、3)ネイティブ教員が行う「英文講読B」(写真④)、4)学長が自ら講義する「英語音声学」(写真①)。一方、専門選択科目にはネイティブ教員が担当する「イギリス史」や「英語史」があり、カリキュラム全体としては英語の必修科目の占める割合が高かった。しかし、中学や高校の学習指導要領の改訂、入試の多



写真③

2. 「英語を教える授業」から「英語で教える授業」へ

新カリキュラムでは、英語科目は必修と選択必修で構成され、それぞれ2年間で履修する。必修科目のクラスは、建学精神を反映した content-based のクラスで、入学時および秋学期終了時に行われるテストによって習熟度別にクラス編制が行われている。選択必修科目「英語スキルズ」は、学生の英語の習熟度、興味、進路に応じて選択できるような科目を配置している。また、「基礎/専門選択科目」には様々な科目が開講されていて、「文化人類学」「ビジュアル・レトリック」「社会正義のグローバルリテラシー」「第二言語



写真④

習得」などは英語で専門を教える授業である。

2005年には、学生の科目選択を容易にし、卒業後の進路選択に一層役立つためにコース制を導入し、1)「異文化理解コース」、2)「英米文学研究コース」、3)「言語研究コース」、4)「児童英語教育コース」の4つのコースをスタートさせた。2010年には、「児童英語教育コース」に外国籍市民や外国人に日本語を教える「日本語教育」科目群を取り込み、「言語教育コース」と改称した。所定の単位数を取得した学生には卒業時に「コース修了証」が授与されている。

3. English in Action—短大独自の英語教育

2005年度から独自の英語教育プログラム **English in Action** を展開している。そのプログラムは、キャンパス内でできるだけ多く英語を使うことを目的とし、必修クラスごとに



作ったスキットを英語で発表する All English Day(写真⑤)、必修クラスで様々なトピックを独自に調べ作成する English Poster Project(English Bulletin Board から改称) (写真⑥)、また、昼食時の時間を利用して英会話を楽しむ English Cafe Luncheon、さら

写真⑤ に English in Action Website や e-learning 等を含む授業外の教育プログラムで、正課の授業と有機的に連携した学習者の自律的学習を支援しているのが特徴である。



写真⑥

4. サービスラーニング活動と英語教育の充実

自立した英語教育の育成という目標は、英語教育に関連したサークル活動やボランティア活動にも及んでいる。SEA(Sophia English Association)は、開学当初より毎年秋に学長杯英語スピーチコンテストを開催。BTC(児童英語教育サークル)は、地域の保育園・幼稚園や小学校で英語を教える活動を続けてきた。



また、2008年度文部科学省の「学生支援GP」に採択された「サービスラーニングによる学生支援の総合化」により、サービスラーニングセンター(写真⑦)を開設した。サービスラーニング活動とは、これまでの外国籍市民に日本語などを教える「家庭教師ボランティア活動」や他のボランティア活動をさらに発展させたもので、学内の学びと学外での学びを有機的に統合し、理論と実践の両面から地域での英語教育・日本語教育支援活動を推進しようとするものである。他方で、「小学校英語指導者資格」を取得するために必要な授業を開設し、シラバスにはサービスラーニング関連度を明記し、授業時間割にサービスラーニング枠を設けるなど、この活動を展開する上で必要な支援を施している。さらに2009年度からは、上智学院が推進する「教育の質を保証」する「教育イノベーションプログラム」において、短大では「建学の精神を反映した内容重視および自己発信型の必修英語プログラム」に取り組み、専任教員が授業での活用を図って共通教材『英語エッセンシャルズ(パイロット版)』を、2011年度の春期に刊行を目指している。

写真⑦